新潟大学附属長岡中学校

附中だより

令和２年11月30日

【第Ⅳ期　自覚・努力】

第８号

教育目標「知性と品位をもち、社会を興す人となろう」

Ａ－Ｄａｙ（附属長岡中学校「探究学習」の日）特集号

今年度は、修学旅行、研修旅行をはじめとして、水泳授業、大学訪問や地層見学などの校外学習等、実施できなかった行事や授業、また予定を変更して行った行事などが数多くあります。幸い、土曜授業や長期休業日の短縮などにより、教科書の内容は年度内に終了する見込みが立っています。しかし、学習には教科書では味わえないたくさんのおもしろさもあります。そこで、普段の授業では味わうことのできない、附属中ならではのひと味違う探究学習に終日取り組む日を設定し、生徒達にチャレンジしてもらうことにしました。

「Ａ－Ｄａｙ」とは、「生徒達がもつ能力【Ability】をいかんなく発揮し、課題解決のために行動【Action】することで、自分自身の前進・成長【Advance】を目指す」ことを願って付けた名前です。「Ａ－Ｄａｙ」の一日の様子をお伝えします。

【１・２年生】

９：００に橋本先生から「Ａ－Ｄａｙ」の主旨や内容についてＺｏｏｍで説明がありました。黒板に貼ってある白い紙は写真の下のようになっています。

各教科（国、社、数、理、音、美、技、家、体、英）から出される課題には、それぞれ「易」、「普」、「難」、「激難」の４段階が設定されています。これらの全 40 問をクラスの生徒で分担して解いていきます。必ずしも希望の教科や難易度の問題を担当することはできませんが、クラスで協力して課題解決に取り組みました。

	国	社	数	理	音	美	技	家	体	英
易										
普										
難										
激難										

ただ、最後はいくつの課題を解決できたかを競うのではありません。各課題を解決すると、１枚ずつカードをもらうことができます。そのカードを表の中に貼っていくと、本当の問題文が分かるようになっていますので、何が問題かは最後まで分かりません。

左の写真は、国語の課題に取り組んでいる様子です。

「易」の課題は、漢字クロスワードです。国語辞典を片手に一生懸命漢字を探しています。

「普」は、奥の細道の一節が今のどこのことを言ってるかを問う問題です。

「難」は、百人一首の意味から当てはまる句のカードを選びます。

「激難」は、森鴎外の高瀬舟をその場で読み、主人公の行為が現在でも罪であるとされる理由を言う問題です。

ちなみに、「易」をクリアすると「歴」のカード、「普」では「入」、「難」では「イラスト（千と千尋の神隠し)」、「激難」では「１位」のカードを手に入れることができます。

体育の「易」は、フリースロー連続２本。
「普」は、テニスボールを、足、バット、テニスラケットの側面のいずれかで、リフティング連続10回。
「難」は、バレーボールの直上パスをしながら体操着の上着を着るか、バレーのサーブでバスケットの３ポイントシュートをするか、のいずれか。
「激難」は、バドミントンで５メートル先にあるマグカップにシャトルを入れる(写真)です。
そして、それぞれの課題をクリアすると、「易」から順に「行」、「え」、「イラスト（紅の豚)」、「９位」のカードが手に入ります。

こうして、分担した課題をクリアしたカードを持ち寄って黒板の表に貼ったのが、左の写真です。問題文の全文は、
「歴代ジブリ作品興行収入ベスト 10 を順に答えよ、（各映画の 1 カットの写真)、（各映画の順位)」
でした。
言葉の部分はカードがなくても推測が可能でしたが、映画の写真と順位のカードが空欄のクラスは相当苦労したようです。すべてのカードが埋まったクラスはありませんでしたが、順位をすべてあてたクラスが１クラス、９問正解したクラスが１クラスで、他のクラスはすべて７問正解と、生徒達の想像力と知識の豊富さに驚かされました。何よりも、映画のタイトルと順位を相談するとき、どのクラスにも協力する姿が見られたことが素晴らしかったです。

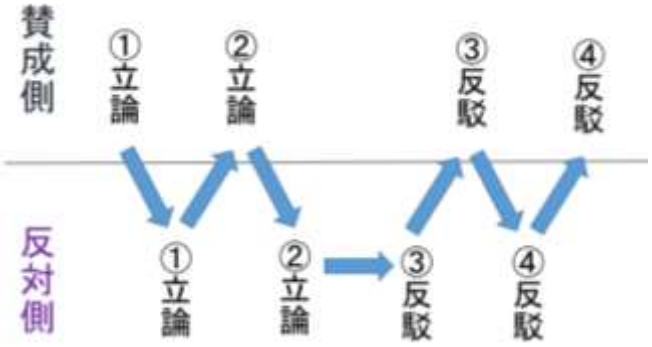
生徒の感想には、以下のようなものがありました。

・一人ではできないことも二人いれば協力してできることが分かりました。なので、クラスでも協力ということを大事にしていきたいです。ただ作るよりも「皆のために」と思ったほうがよりよいものができると思いました。
・とても有意義な時間だった。いつも授業でしている問題よりレベルの高い課題で今まで学んできた知識をフル活用して取り組めた。積極的にみんなが取り組めていて、普段の授業でもこのような積極的なディスカッションをしていきたいと思う。またやってみたい。
・気の合う仲間と協力して、課題を達成させるのは楽しかったし、達成したときの感情もまたよかった。自分自身、達成できなかった課題もあったが、仲間と協力できて良かったと思う。困難な課題を取り組む際、最初は一人でやってみようという気持ちだったが、途中から、一緒にやろう！といわれてうれしかった。課題を達成しても達成しなくても、教室に戻るとみんなが、「おつかれ」「おつかれさま！」など、暖かい言葉をかけ合っていたのがすごくうれしかった。今日の体験を日頃に

生かしていきたい。
・資質・能力をいろいろな場面で使ったと感じました。いつもはあまり協働する力や先を見通す力を使っていなかったけれど、一緒の教科になった人と協力してできたし、制限時間があった中でいつまでに何を終わらせなければならないのかを考えながらすることができました。資質・能力を使うことは身近にあるけど、意識をしないので、どれだけ使ったか分からないときが多いけど、意識することによって、どんな時に使ったか実感できるので意識することは大切だと考えました。

【３年生】

３年生はＡ－Ｄａｙ当日のディベートに向けて、ディベートとはどういったものか、論題に対してどのような準備が必要かを解説プレゼンと実際の映像を見て学習しました。附属長岡中学校のディベートは、ある論題に対して、賛成側はメリットを反対側はデメリットを交互に立論（根拠をもって自分の意見を述べること）します。その後反駁（立論に対して根拠をもって反対意見を述べること）として相手側の立論に対して誤りであることや自分の側の主張が勝っていることを述べます。ジャッジはディベートを見てより説得力のある側の支持を表明し、その人数で勝敗が決まります。（※一般的なディベートの流れとは異なります。）



また、Ａ－Ｄａｙ当日に向けて練習として、論題「高齢ドライバーは免許返納すべき」の是非についてディベートを行いました。まず、全員が個人で是非の両方の立場の立論を作りました。それぞれの立場を支持する理由とその正しさを証明する根拠を調べました。その後３クラスの生徒が混じって抽選を行い４人１チームに分かれ、是非の立場が割り振られました。各チームで自チームの立論を決め、相手チームの立論を予想して反駁を計画しました。右の写真のように、実際に当日と同じ会場でディベートを行いました。ディベート後は「立論１と２が同じことを言ってしまった」「相手の立論が予想と違う」「反駁のための資料は用意していない」「反駁がかみ合っていない気がする」という振り返りを口にしていました。Ａ－ＤＡＹ当日も同じグループでディベートを行うので、「次は反駁がいい」「調べるのを分担しよう」と打ち合わせているところもありました。

Ａ－Ｄａｙ当日の１時間目に、論題を発表しました。

論題１	中学生のスマートフォンの持込について
論題２	スーパーの袋の無料配布

また、論題の趣旨は以下の通りです。

【中学生のスマートフォンの持込について】

スマートフォンの普及が広がっていること、その利便性は広く知られています。普及に伴って犯罪、健康被害などが社会問題として挙がっています。「いのち」で学んだ生命とその安全に着目して、利便

性と社会問題を関連付けた議論を期待しました。

【スーパーの袋の無料配布について】

今年７月からプラスチック製買い物袋有料化が小売店に義務付けられました。生徒にとっても生活に何らかの変化を与えていると思われます。「いのち」で学んでいるＳＤＧｓでも着目されている、環境の保全の願いが込められています。しかし小売店や消費者など、立場によって不都合と声が上がっているのも事実です。それぞれの立場の効果の大きさを中心とした議論を期待しました。

論題が発表されると、生徒はすぐにパソコンとタブレットを使って関連情報を収集し始めました。生徒は資料集めが進むと、グループで立論の方向を決め、そこに必要な資料を分担するなど、役割をもつようになりました。

４時間目にはそれぞれ集めた資料を持ち寄り、右の写真のようにディベートの打ち合わせを行いました。原稿を作るグループ、反駁のための資料で不足しているものを集めるグループ等、本番をイメージした準備をしました。「前（事前学習のディベート）よりは充実した資料をあつめることができた。」と言いながらも少し緊張した表情を見せました。

５時間目にディベートの全体会を行いました。３年生は体育館で、１・２年生は右の写真のようにオンラインで体育館とつなぎ参観しました。

最初に、長岡高校の先生からディベートの目的を説明してもらいました。ディベートの目的は次の４点であると述べられていました。

・論理的思考（筋道をしっかり付けて考えること）を身に付ける。
・相手に伝わるように話す。
・相手に納得してもらうために、根拠となる説得力のある情報を収集・整理する。
・集めた情報が正しいかどうかを客観的・多面的・批判的に判断する。

また、ディベートで大切なのは反駁で、立論を批判的に捉え、数値等の確かな根拠をもって反対意見を述べることにより、相手の立論をいかに崩すかがポイントであると述べられていました。当校で身に付けたい力と合致する部分が多くあります。ディベートをしっかり行うことが自分の力をはぐくんでいけると生徒も実感していました。

その後、長岡高校理数科の生徒（11 人来校したうち、６人が当校の卒業生）が「長岡高校の制服の制度化（長岡高校は現在私服であるが、制服にするべきか）」を論題にディベートを行いました。なお、長岡高校のディベートでは、互いの立論の間に相手側への質疑を入れます。これにより相手の立論への理解を深め、反駁の方向を決

めたり、自分の立論との対立点を明確にしたりします。

賛成側は「経済面」と「所属意識の向上」を着眼点として立論しました。一方反対側は「経済面」「自由度」「時代背景」を着眼点として立論しました。以下は経済面を着眼点とした討論の一部です。

賛成側立論：私服は家庭の経済状況が表される。制服は個人差が出ない。また、制服は値段が高いかもしれないが、最近はリサイクル等で気軽に手に入るようになっている。

反対側立論：制服は夏用・冬用で費用がかかる。併せて、休日用に私服を購入する必要がある。制服は自宅で洗濯することができず、クリーニングでさらに費用と手間がかかる。

反対側が賛成側を反駁：私服の高校と制服の高校で３年間にかかる費用について。制服の高校は３４万６０００円（制服代、休日の私服代、クリーニング代等）。私服の高校は２１万５０００円（平日・休日の私服代・冠婚葬祭で着用する服代）である。

賛成側が反対側を反駁：私服の高校の方が、費用が安いというデータの出所・信憑性がうすい。仮に正しかったとしても、国立社会研究所によると子供が２人以上の家庭が８割をしめる。兄弟で制服をゆずりうけることも可能であり、経済面では制服がよい。

長岡高校理数科の生徒のディベートを聞いた全校生徒は、賛成側・反対側どちらを支持するのか、意志表示カードを用いてジャッジしました。青が賛成側を指示し、赤が反対側を指示します。司会が数を数えたところ、僅差ですが、賛成側を指示する生徒が多かったです。

賛成側を支持した生徒に話を聞くと、「賛成側を指示した大きな理由は、身近な場所で制服のリサイクルの活動が行われているということを新たに知ったことです。制服のある学校に進学する家庭に対する様々な配慮が広がっているのだろうと感じました。」と答え、討論の内容をきちんと踏まえた回答を述べていました。

長岡高校の生徒の質の高いディベートを聞き、全校生徒は、根拠を示して話をすることの大切さを実感するとともに、３年生はこの後自分たちが実演するディベートへの意欲を高めていました。

全体会後、３年生は８会場に分かれて実際にディベートを行いました。

最初に「中学生のスマートフォンの持込について」を論題としてディベートを行いました。「安全」「学力」「情報モラル」「健康」を着眼点とした討論が多かったです。

以下は「学力」を着眼点にした討論の一部です。

反対側立論：スマートフォンを持ち込むと、スマホの利用時間が増える。文部科学省によると、スマホ使用時間が増えるほど、正答率が下がる。

賛成側が反対側を反駁：文部科学省のデータは医学的な根拠がない。ゲーム機での「脳トレ」を推奨する大学教授もいる。要はスマホをどのように使うかが大切で、使い方によっては学力やコミュニケーションの向上につながるという学者もいる。

お互いに根拠となるデータを示して白熱した討論が行われていました。また、立論と反駁の間には各チーム作戦タイムが設けられていました。その時間では、相手の立論に対してどのように反駁するか積極的にチームで相談する姿が見られました。「スマートフォンの持込について」は８会場中、５会場が賛成側を支持、３会場が反対側を支持する結果となりました。

次に「スーパーの袋の無料配布について」を論題としてディベートを行いました。「環境」「経済」「衛生」を着眼点とした討論が多かったです。

以下は「環境」を着眼点とした討論の一部です。

反対側立論：経済産業省によるとレジ袋を有料化することで、エコバック等を利用して、レジ袋の削減につながる。プラスチック製品のうち、レジ袋の割合は0.3%に過ぎずレジ袋の削減がプラスチックごみの大幅な削減にはつながらないが、資源を大切にしていこうという意識をもたせることにつながる。

賛成側が反対側を反駁：反対側立論のように、レジ袋のプラスチック製品に占める割合は0.3%のため大幅な削減にはつながらない。しかも、今までレジ袋をゴミ袋に活用していた人は新たにゴミ袋を購入することになる。また、日本ＬＣＡ学会によると、エコバックをつくる際にもレジ袋作成と比較して環境負荷が大きいという調査結果もある。

８会場中、４会場が賛成側を支持、４会場が反対側を支持する結果となりました。それぞれのディベート後には、長岡高校の生徒から感想を述べてもらいました。「賛成側の立論の着眼点は４つだったが、反駁により３つ崩された。一方、反対側の立論は３つだったが、反駁により１つしか崩されなかった。だから反対側を指示しました」と客観的にディベートを分析し、価値付けてもらいました。立論もさることながら、立論を切り崩すための反駁の質の高さに長岡高校の生徒も感心していました。

ディベートを終えて、振り返りとして感じたことや考えたことを書いてもらいました。

・内容はスマートフォンの持込についてでした。今までの私であったら、「いいんじゃない」くらいの軽い意見で答えていたと思います。ですが調べていったときに、最終的には命が脅かされるかされないかにたどり着きました。この視点を最終的に持てたのは、今までの「いのち」の授業でいつも意識できていたからなのかなあと思います。

・思っていた以上にディベートが難しかった。特に反駁が大変だった。１回しか言わない相手の立論を把握し、メモして、そこから１分という短い間でそれに対する反駁を考える、ということの大変さを知った。何気なくしていたが、振り返りを行ったときに、本当に９つの力を使っていたことに気付いた。９つもの力を使うディベートはすごいと思う。おおいに使うことができて良かった。

・立論で、賛成側・反対側にしてもメリットを提示すことはとても難しかった。論題は中学生のスマホ持込について、担当は立論２。賛成側だったがメリットがほとんどない。これといった資料もなくあまり説得力のない立論、あっさり反対側に押し負けてしまった。悔しかった。どうやら賛成側

で勝利したグループもあったようなので、そのグループがどのような発言をしたのか聞いてみたくなった。
・前半チームのディベートのジャッジをしていて、話をしている人はあまり気付いていないかもしれなかったが、話の論点がずれているなと感じることができた。そのことに対して相手側の反駁で指摘が入った時に、この反駁は効果的だなと思った。
・前日練習したとき、反論が来ても動じない対策と、立論１、２の対策ができていなくて相手チームからはズタボロに言われたことを反省して当日の準備時間に入念にメンバーで調べた。予想していた反論が来た時には内心嬉しくて、予想していない反論が来たときは制限時間内にたくさん話した。結果勝つことができて嬉しかった。努力したことが発揮できたかなと思った。
・こちらの立論に対してよくわからない反駁を返してくることがあった。途中で「そうじゃなくて！」と突っ込めないのが実にもどかしい。相手の理解の間違いに何も言えないので、理解の間違いを生まないよう、伝える力を鍛えなければいけないなと感じた。
・楽しかった！わ～という感じだった。でも何か足りないと思うことがあった。（３人グループだったので２役務めたが）立論２回ではなく反駁２回がいいかなとか。ネット接続が悪いとかあったが、すごいイキイキとしてできた。調べたりなくて悔しい時もあって、でもこの時間だけでやるのが楽しいんだとも思った。反駁、楽しいなと思った。

ディベート自体のこと、それまでの準備のこと、「いのち」の学習とのつながり等様々な面で気付きと資質・能力の高まりへの自覚がありました。

また、１・２年生は３年生のディベートを見て、次のような感想をもちました。

＜１年生＞
・まずディベート以前に情報収集能力がすごいと感じました。あらゆる面からの攻撃に対応できるくらい情報を集めたと思うとすごいと感じました。
・賛成側も反対側も具体的な数値や情報でジャッジを納得させていてすごかった。自分の最初の考えと反対の方にも納得させられた。高校生のディベートに負けないくらいすごかったと思う。自分も３年生になったらあんなふうになりたいと思う。
＜２年生＞
・まずとてもクオリティが高いと思った。それと同時に来年このような姿になれるかという心配もあった。
・Ｚｏｏｍで見たが、声が聞きとりにくいところがあって全容を把握しきれず分からないところがあった。意見の矛盾を突くなど、聞いていて興味深かった。私たちもやってみたいと思った。
・立論がとてもしっかりしていた。いろいろなところからテーマにおける資料を引っ張ってきて、それをただ話すだけではなく自分自身で解釈して、ジャッジの人に分かりやすく納得してもらうための工夫が感じられた。

Ａ－Ｄａｙはまさに「生徒達がもつ能力【Ability】をいかんなく発揮し、課題解決のために行動【Action】することで、自分自身を前進・成長（Advance）させた」１日であったといえます。

新型コロナウイルス感染症対策のお願い

長岡市及び近隣市町村における新型コロナウイルス感染症の発生状況をふまえ、附属長岡中学校ではこれまで取り組んできた「マスクの着用」「手指の手洗い・消毒」「校内の消毒作業」「健康チェック表の提出」「換気」等の対策を今後も徹底します。

特に健康チェック表については、チェック表を忘れたり、体温を測り忘れたり記入漏れがないよう、家庭でも一層のご配慮をお願いします。

新潟大学附属長岡中学校　〒940-8530　長岡市学校町１－１－１
Tel　0258-32-4190　Fax　0258-32-6340
Email　kobai@nagaoka.ed.niigata-u.ac.jp　ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.nagaoka.ed.jp/